



新国立劇場

BALLET^{バレエ} 2011/2012シーズン

CONTEMPORARY^{コンテンポラリーダンス}
DANCE



新国立劇場

2011年1月

| Contents |

舞踊芸術監督 デヴィッド・ビントレー	2
2011/2012シーズン バレエ ラインアップ	5
パゴダの王子 新制作	6
くるみ割り人形	9
こうもり	12
アンナ・カレーニナ	14
白鳥の湖	16
マノン	18
主役キャスティング	21
主役ダンサー・プロフィール	22
2011/2012シーズン コンテンポラリーダンス ラインアップ	27
ダンスシアターNo.21 中村恵×首藤康之 Shakespeare THE SONNETS	28
ダンスプラネットNo.35 近松DANCE 弐題	30
ダンスプラネットNo.36 小野寺修二 カンパニーデラシネラ カラマーゾフの兄弟	32
ダンスシアターNo.22 DANCE to the Future 2012	34
公演一覧 (1997.10 ~ 2011.6)	35

2011/2012 シーズン バレエ・コンテンポラリーダンス



舞踊芸術監督
Artistic Director (Ballet & Dance)

デヴィッド・ビントレー
David Bintley CBE

新国立劇場舞踊芸術監督としての2シーズン目の幕開きに、新国立劇場バレエ団が『パゴダの王子』（ベンジャミン・ブリテン作曲）を世界初演することを今からとても楽しみにしています。

これは30年来温めてきた私の夢が実現することでもあります。1957年にジョン・クランコが振り付けた『パゴダの王子』が初演された時から、私の恩師であり英国ロイヤルバレエの創始者でもあるニネット・ド・ヴァロワ女史が、この音楽を使って私の振付作品として上演するよう熱心に勧めてくれていました。当時の私にはそれに相応しい手腕ありませんでしたし、実のところ、この作品に取り組む気持ちもありませんでしたが、女史の言葉は私の心に確実に種を撒いたのです。その後1990年にケネス・マクミラン卿のバージョンが成功を収めました。女史が若かりし頃の私にくださった言葉とともに、この『パゴダの王子』は長い間私の心をさまよい続けていたのです。事実、この作品はシナリオの難点故に、長い間多くの振付家が作品化を躊躇したことはよく知られていました。

『パゴダの王子』が日本的文脈の中で再構築できるかもしれない、と突然閃いたのは、日本滞在中のことでした。もっと正確には、歌川國芳の素晴らしい浮世絵を見ていた時のことでした。発想が湧き上がり、私はすぐに全体をある種の日本のファンタジーとして、もう一度イメージしはじめました。私はプロットを書き、デザイナーとともにこの魅力的なプロジェクトに今取り組んでいるところです。イギリスと日本の文化と神話が融合した作品が、この10月『パゴダの王子』として結実することでしょう。

さて、もう一つ別の創造性が発揮されることとなるのがコンテンポラリーダンスの4公演です。この2年余りの間に、私にとっては未知の分野であった日本のコンテンポラリーダンス・シーンに遭遇したことはとても楽しい経験でした。そこはスタイリッシュな革新性やドラマティックな緊張感、あるいは笑ってしまうような愉快さに溢れたとてもユニークな融合の場であったのです。今シーズンのコンテンポラリーダンス公演はそれらの全ての要素が盛り込まれているところか、さらに素晴らしいものになることをお約束します！

今日の世界を取り巻いている財政的な混乱時にあっては、確固とした創造経験の実績を持った新国立劇場バレエ団のような団体こそが、あくことなきチャレンジ精神によって、将来を見据えることができるのだらうと思います。新シーズンが全幕バレエの世界初演で開幕するというだけでなく、近年のクリエイティブな作品として牧阿佐美前芸術監督の斬新な『くるみ割り人形』やロシアの振付家ボリス・エイフマンの『アンナ・カレーニナ』を上演できることをとても誇りに思います。これらの舞台は2009/2010シーズンにこそ新国立劇場を感動の渦に巻き込んだ作品なのです。

加えて、2003年に新国立劇場で初演された英国のケネス・マクミラン振付によるクラシック・ロマンス『マノン』やフランス的な楽しさに溢れたシックでスタイリッシュなローラン・プティの『こうもり』を上演しますので、新シーズンはまさにそれぞれの国の香り豊かなシーズンになることでしょう。

さて私は『白鳥の湖』をラインアップに入れ忘れてしまうのでしょうか？ 新国立劇場バレエ団の熱烈なファンの皆様は、もし私が本シーズンも『白鳥の湖』を取り残してしまったら、私を許してくださるのでしょうか？ 大丈夫です、世界中で愛されているこのバレエを、この度は2006年に改訂振付された素晴らしい牧阿佐美版『白鳥の湖』で上演いたします。

新シーズンの演目が、皆様の想像力と精神を刺激して、何かしらを発見していただけるものになるよう願っております。

I am very excited to be opening my second season as Artistic Director of the National Ballet of Japan with a brand new creation, an entirely new production of Benjamin Britten's ballet, *The Prince of the Pagodas*. This is the realisation of a dream for me as, more than thirty years ago, my mentor and founder of the Royal Ballet Dame Ninette de Valois was urging me to consider the first revival of this score since its premiere in 1957, with choreography by John Cranko. At that time, I had neither the facility nor I have to admit, the desire to tackle this piece, but it was a seed very well sown by Madam, as despite Sir Kenneth MacMillan's successful 1990 version, *The Prince of the Pagodas* has long haunted me, though the rather unwieldy scenario has long proved a stumbling block for a number of choreographers.

It was while I was in Japan, and more precisely, looking at the marvellous ukiyo-e of Kuniyoshi, that I suddenly realised that this ballet might be re-thought in an entirely Japanese context. Bearing this in mind, I hastily began to re-imagine the whole as a kind of fantasy on Japanese themes. As I write, my designer and I are working on this fascinating project, a fusion of British and Japanese culture and mythologies, which will bear fruit this October.

Creativity of another kind characterizes the four programmes featured in our contemporary dance season. Over the past two years, I have very much enjoyed my forays into the contemporary dance scene in Japan and found it to be a quite unique melting pot of stylistic innovation, dramatic intensity and sometimes hilarious whimsicality. This season's line up of new contemporary dance creations promises all of those things, and more!

At this difficult time, with finance around the world in turmoil, it is only the most adventurous and forward looking Companies who can look to the future and the recent past with creative credentials as strong as the National Ballet of Japan. Not only is the National Ballet opening its season with a new full-length ballet, but the rest of its season can boast a creative recent past that includes not only Asami Maki's daring new production of the *Nutcracker* but also Boris Eifman's *Anna Karenina*, which caused such a stir here at the New National Theatre, Tokyo during the 09/10 season.

Add to that, the first revival since 2003 of Sir Kenneth MacMillan's classic romance *Manon* and the Gallic delights of Roland Petit's chic and stylish *La Chauve Souris* and the National Ballet has a truly international flavour this season.

Did I leave out *Swan Lake*? Would the devotees of the National Ballet of Japan forgive me if I left *Swan Lake* out for another year? Well, here it is, the world's favourite ballet in Asami Maki's majestic production of 2006.

I hope you can all find something in this new season to tantalize your imaginations and spirits.

〈プロフィール〉

英国ハダースフィールド生まれ。英国ロイヤルバレエ学校に入ったが、当時英国ロイヤルバレエでは、マーゴ・フォンティン、ルドルフ・ヌレエフ、アンソニー・ダウエルなど世界的なダンサーが活躍していた黄金時代であり、フレデリック・アシュトンやケネス・マクミランが最高傑作を生み出す同時代に居合わせていた。1976年サドラーズ・ウェルズ・バレエ（現バーミンガム・ロイヤルバレエ）に入団し、瞬く間に秀逸なキャラクター・ダンサーとしての頭角を現した。アシュトン振付の『ラ・フィユ・マル・ガルデ』のアランやシモーヌ、『真夏の夜の夢』のボトム、『シンデレラ』の意地悪な姉などを演じている。入団後2年も経ずにプロとしてサドラーズ・ウェルズ・バレエのために『アウトサイダー』を振り付けた。この作品には既に人物への鋭い洞察、知的で刺激的な音楽の選択などビントレーの資質が現れていたが、ここではジョージ・バランシンなどのアメリカの影響とアシュトン、チューダー、マクミランなどのイギリスの伝統的系譜がともに見て取れる。82年に3ヶ月間アメリカとドイツのダンスシーンを視察、この経験は間違いなくビントレーのイマジネーションを拡げ、ビントレーが持っていたイギリス的アプローチの本質に確信を与えることになった。86年から93年の間、サドラーズ・ウェルズ・バレエや英国ロイヤルバレエの振付家として活躍。93年にフリーランスになった時には世界中の7カンパニーから新制作依頼が殺到した。ピーター・ライトを引き継いで95年からバーミンガム・ロイヤルバレエ芸術監督。ビントレーの見事な振付はアシュトンやマクミランの継承者にふさわしいものである。2010年『シンデレラ』をバーミンガム・ロイヤルバレエで新制作し高く評価される。01年CBE（大英帝国勲章）受勲。新国立劇場では05年『カルミナ・ブラーナ』、08年『アラジン』、10年『ペンギン・カフェ』が上演され高い評価を得た。10年9月1日より新国立劇場舞踊芸術監督。

BALLET

| *Lineup* |

2011/2012 シーズン バレエラインアップ

〈新制作 1 演目 / レパートリー 5 演目 計 6 演目 34 公演〉

2011.10-11

パゴダの王子 **新制作**

6 回公演

2011.12

くるみ割り人形

7 回公演

2012.2

こうもり

5 回公演

2012.3

アンナ・カレーニナ

5 回公演

2012.5

白鳥の湖

6 回公演

2012.6-7

マノン

5 回公演

パゴダの王子

2011.10/30 ~ 11/6

新制作
New production

Bintley's The Prince of the Pagodas

オペラパレス | 6回公演

待ちに待ったビントレー芸術監督振付全幕新制作！ 世界初演、日英をつなぐ舞台が誕生

“パゴダ”とは英語で「仏塔」のこと。語源的には「神像の家」「神に属する家」「釈迦の住む家」などの意味があります。元々はジョン・クランコが構想したバレエ作品で、音楽はイギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテンに委嘱され、3幕構成の『パゴダの王子』が誕生しました。クランコの演出・振付で1957年に英国ロイヤルバレエで初演。クランコはこのバレエに愛着を持って多くのバレエ団で何回も再演しましたが、本家の英国ロイヤルバレエではレパートリーとして定着しませんでした。クランコを敬愛するマクミランは、この『パゴダの王子』の新演出を構想し、ブリテンにも許可を取り物語性をさらに強めるなど、大幅な修正を行ったため上演まで数年間を要しましたが、完成した新演出はマクミラン自身の60歳の記念として89年に英国ロイヤルバレエでガラ公演として上演されました。

今回、英国ロイヤルバレエの系譜にあって、マクミランの薫陶も受けたビントレー芸術監督がストーリーを練り直し、全く新たな振付で新国立劇場バレエ団が世界初演します。ビントレーは歌川國芳の描いた浮世絵など日本絵画からもインスピレーションを得、物語のプロットにもビントレー独自のアレンジが加えられ親しみやすい展開に創り上げられました。

また作品の魅力の一つともいえるブリテンの音楽は、バリ島のガムラン音楽の影響を受けた魅惑的な響きで聴く者を惹きつけますが、この曲が全幕版で演奏されるのは今回が日本初となります。

2008年にビントレー芸術監督が新国立劇場バレエ団に振り付け世界初演された『アラジン』は海外からの注目を集め、海外バレエ団での上演も計画中で、日本の新国立劇場バレエ団が世界へ発信する高い芸術性を持つことを示す好例であり、今回の『パゴダの王子』にも世界への発信という点でも注目が集まります。

ビントレーが監督就任して初めて新国立劇場バレエ団に振り付ける作品でもあります。『アラジン』に引き続き、見る者を別世界に誘うビントレー・マジックにぜひご期待ください。

ものがたり

皇帝は息子の早すぎる死を嘆き、その悲しみからどうしても立ち直れずにいる。時は流れ、妹君のローズ姫に4つの王国の王が求婚する。皇妃である彼女の継母は求婚者たちの富や権力故に義理の娘の結婚を熱望するが、ローズ姫は結婚を拒む。そこへ5人目の王子が現れる。彼は実は継母の呪いで金のサラマンダにされたローズの兄だった…。ローズ姫は様々な試練を受けながらも、サラマンダとともに彼の王国パゴダにたどり着き、その地でこのサラマンダが長く会わなかった兄であったことを知る。妹と兄は力を合わせて王国を元の平和な地に戻そうとする…。

振 付：デヴィッド・ Bintレー	Choreography : David Bintley
音 楽：ベンジャミン・ブリテン	Music : Benjamin Britten
美 術：レイ・スミス	Designs : Rae Smith
照 明：沢田祐二	Lighting : Sawada Yuji
指 揮：ポール・マーフィー	Conductor : Paul Murphy
管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団	Orchestra : Tokyo Philharmonic Orchestra

※本公演は英国バーミンガム・ロイヤルバレーとのコプロダクションとなります。

キャスト

ローズ姫：小野絢子／長田佳世／米沢 唯
王 子：福岡雄大／山本隆之／菅野英男
女王エピーヌ：湯川麻美子／川村真樹／本島美和
皇 帝：津村禮次郎／M.トレウバエフ
北の王：八幡顕光／福田圭吾／G. パリノフ
東の王：芳賀 望／江本 拓／輪島拓也
西の王：M.トレウバエフ／厚地康雄／福岡雄大
南の王：古川和則／菅野英男／貝川鐵夫

ベンジャミン・ブリテン (1913～1976)

Benjamin Britten

20世紀イギリスの最大の作曲家とされる。少年時代にF.ブリッジに学んだ後、王立音楽学校でJ.アイアランドに作曲を学ぶ。記録映画音楽、劇の付随音楽を手がけ、国際現代音楽祭に数回入選後、1939年渡米。この前後より詩人のW.H.オーデン、歌手のP.ピアースと親交をむすび、芸術の上で強い影響を受ける。第二次世界大戦後、心理的表現の歌劇で世界的注目を浴びたほか、あらゆる分野の作品で広く認められた。48年よりオールドバラ音楽祭を主宰。56年に日本を訪問している。



ポール・マーフィー

Paul Murphy

バーミンガム・ロイヤルバレエとそのオーケストラ、ロイヤル・バレエ・シンフォニアの首席指揮者。英国全土の劇場における公演に加え、コンサートや収録でも共に仕事をしている。1994年以来、ロンドンの英国ロイヤルバレエで定期的にゲスト指揮者を務めており、ロイヤル・オペラ・ハウス管弦楽団と定期的に仕事をしている。その他、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ハレ管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、BBCナショナル・ウェールズ管弦楽団、ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団、BBCコンサート・オーケストラ、オペラ・ノース管弦楽団、バーミンガム市交響楽団等、英国の優れたオーケストラを多数指揮している。海外ではベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ワシントン・ナショナル・オペラ管弦楽団、ソフィア・オペラ管弦楽団、シチリアのテアトロ・マッシモ管弦楽団等と仕事をしている。また、ニューヨーク・シティ・バレエ、ライン・バレエ、ロイヤル・フランダース・バレエ、オランダ国立バレエ、最近ではオーストラリア・バレエのゲスト指揮者を務めている。BBCラジオ3、BBCテレビ、チャンネル4、アーツ・ワールドによる収録を多数行っており、CDのリリースではハレ管弦楽団（サン・サーンスのピアノと管弦楽曲全曲）、ロイヤル・バレエ・シンフォニア（ポール・リーディの『遙か狂乱の群れを離れて』とイギリスのライト・ミュージック・クラシックス2枚）、ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団（バターワース、ディーリアス、コルンゴルドの曲）、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との共演がある。英国王立音楽院でコリン・メターズ、ジョン・カーラー、ジョージ・ハーストに指揮を学び、サー・コリン・デイヴィス、オリヴァー・ナッセンのマスター・クラスに参加した。97年、英国王立音楽院のアソシエイトに選ばれる。新国立劇場では2008年デヴィッド・ピントレー振付『アラジン』初演、10年『カルミナ・ブラーナ』『ガラントウリス』『火の鳥』『シンフォニー・イン・C』『ペンギン・カフェ』を指揮している。

くるみ割り人形

2011.12/17 ~ 25

レパートリー
Repertoire

The Nutcracker

オペラパレス | 7回公演

新国立劇場のクリスマス・プレゼント！

牧阿佐美前芸術監督の改訂振付、温かな愛に溢れたひと時を。

牧阿佐美前芸術監督が在任中に新国立劇場バレエ団に振り付けた作品で、新国立劇場バレエ団とバレエを熟知した牧前芸術監督ならではの温かな愛に溢れたバレエです。当作品はたいへんな好評を博しDVD化もされました。現代の東京と思しき都会のシーンから始まる幕開き、あっと驚くサンタクロースの登場など、物語の親しみやすさから小さなお子様もお楽しみいただける作品です。

さらに高度なテクニックを要する牧前芸術監督の振付は、コアなバレエファンも惹きつける魅力に溢れており、奥深い作品でもあります。

また牧作品の特徴でもある豊かな色彩感覚やヴィジュアルの美しさが当劇場バレエダンサーの洗練された高度な踊りと相俟って夢のような幻想的な世界が現前します。

主役級のダンサーが1公演で顔見世興行的に複数名登場する構造になっているため、新国立劇場バレエ団の層の厚さをお楽しみいただける公演でもあります。

芸術の持つ豊かさを存分にご堪能いただける舞台の初の再演にご注目ください。

振付：マリウス・プティパ／レフ・イワノフ Choreography : Marius Petipa / Lev Ivanov

作曲：ピョートル・チャイコフスキー Music : Pyotr Tchaikovsky

演出・改訂振付：牧阿佐美 Revised by Maki Asami

装置・衣裳：オラフ・ツオンベック Designs : Olaf Zombeck

照明：立田雄士 Lighting : Tatsuta Yuji

指揮：大井剛史 Conductor : Ooi Takeshi

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団 Orchestra : Tokyo Philharmonic Orchestra

キャスト

金平糖の精：小野絢子／米沢唯／本島美和／川村真樹

王子：山本隆之／厚地康雄／福岡雄大／芳賀望

雪の女王：西山裕子／寺田亜沙子／湯川麻美子／堀口純

クララ：伊東真央／加藤朋子／さいとう美帆／井倉真未



2009年公演より



マリウス・プティパ (1818 ~ 1910)

Marius Petipa

1818年フランス・マルセイユ生まれ。舞踊家、舞踊教師、振付家。13歳のときに父の作品で舞台デビューを果たし、47年にサンクトペテルブルクの帝室ボリショイ劇場に招かれた。55年からは父の後任として、劇場附属バレエ学校で、踊りと得意としていたマイムの教師を兼任している。62年に振り付けた『ファラオの娘』が大成功し、副バレエマスターに就任。69年にはサン＝レオンが退任したため、首席バレエマスターとなる。以後『ドン・キホーテ』（1869年）、『ラ・バヤデール』（77年）、『眠れる森の美女』（90年）、『白鳥の湖』（95年、イワノフと共作）、『ライモンダ』（98年）など、数々の傑作を残しロシア・バレエの伝統を確立した。1903年初演の『魔法の鏡』まで、改訂振付を加えれば70以上の作品をロシアで振り付けている。10年、クリミア地方グルズで亡くなった。



レフ・イワノフ (1834 ~ 1901)

Lev Ivanov

1834年モスクワ生まれの舞踊家、舞踊教師、振付家。モスクワとサンクトペテルブルクで学び、在学中16歳頃から、サンクトペテルブルク帝室劇場バレエのコール・ド・バレエに加わる。キャラクター・ダンサーとして高い評価を受け、後にプリンシパルに昇格した。85年第二バレエマスターに任命され首席バレエマスターのマリウス・プティパと共に働く。1901年サンクトペテルブルグで亡くなった。

牧 阿佐美

Maki Asami

日本バレエ界の草分けの一人、橘秋子の長女として生まれる。4歳で初舞台を踏み、20歳の時に米国に留学、A.ダニロフ、I.シュヴェツォフに師事。その後、橘バレエ団を基礎に、橘秋子と共に牧阿佐美バレエ団を設立し、プリマ・バレリーナとして数々の作品に主演。昭和35年には、日本で初めて外国人ダンサーを相手役に全幕バレエ『コッペリア』を踊り、絶賛を浴びる。橘秋子の没後はその遺志を継いで舞台を退き、牧阿佐美バレエ団主宰者、橘バレエ学校校長となり、その卓抜した指導力で、日本を代表する舞踊手を数多く世に送り出す。また振付家としても活躍する一方、海外より多数の著名な指導者や振付家を招き、国際共同による質の高い舞台制作を手がけている。ニムラ賞、芸術選奨文部大臣賞、東京新聞舞踊芸術賞、舞踊批評家協会賞、橘秋子賞特別賞を受賞。平成8年（1996年）秋には、多年にわたり数多くの作品を振り付け、発表し続けた功績により紫綬褒章を受章。2004年2月フランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエを受ける。08年5月には日本人として初めてブノワ賞の審査にあたった。08年に平成20年度の文化功労者に選ばれた。振付家としての主な経歴は、1965年『火の鳥』、67年『眠れる森の美女』をイゴール・シュヴェツォフと共同振付して主役を踊り、衣裳デザインも自ら手がけて上演した。68年には振付家として本格的にデビューし、黛敏郎作曲『ブガク』、芥川也寸志作曲『トゥリプティーク』、團伊玖磨作曲の『シルクロード』を振付して注目された。最近では95年に『ロメオとジュリエット』、98年に『椿姫』をアザーリ・プリセツキーと共同振付して絶賛を浴びた。新国立劇場バレエ団への全幕物の演出・改訂振付第1作目として2000年11月に『ラ・バヤデール』を手掛け好評を博した。第2作目は04年10月に『ライモンダ』全幕改訂振付、この作品で朝日舞台芸術賞を受賞した。第3作目に06年11月に『白鳥の湖』を改訂振付・演出し、高い評価を得た。07年には新国立劇場完全オリジナルの『椿姫』の振付・演出にあたり、第7回朝日舞台芸術賞を受賞。1999年から2010年まで新国立劇場舞踊芸術監督を務め、ワシントン・ケネディーセンター公演（「ジャパン・フェスティバル」参加）とモスクワ・ボリショイ劇場公演『椿姫』の海外公演を大成功に導くなどバレエ団の育成と発展に大きく寄与した。現在、新国立劇場バレエ研修所所長。



ピョートル・チャイコフスキー (1840 ~ 1893)

Pyotr Tchaikovsky

1840年、ロシアのウラル地方ヴオトキンスク生まれの作曲家。66年に新設のモスクワ音楽院の教師に就任。三大バレエ『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『眠れる森の美女』、オペラ『エウゲニ・オネーギン』『スペードの女王』、交響曲第6番『悲愴』のほか、数多くの作品を作曲。85年にモスクワ近郊に居を構えるまで頻繁に海外に滞在した。その後は自作の指揮で欧米を精力的に訪問。93年サンクトペテルブルグで交響曲第6番『悲愴』の初演指揮後急死した。



大井剛史

Ooi Takeshi

東京都生まれ。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京芸術大学音楽学部指揮科を卒業後、1999年同大学大学院音楽研究科指揮専攻修了。学内にて若杉弘、故岩城宏之の各氏に指導を受ける。96年安宅賞受賞。その後、ヴェルビエ音楽祭にてジェームズ・レヴァイン、クルト・マズアの両氏に、シエナ・キジアーナ音楽院においてジャンルイジ・ジェルメッティ氏に、それぞれ指揮法を師事。2002年、新国立劇場中劇場におけるモーツァルト劇場公演『ペレアスとメリザンド』（ドビュッシー）を指揮して、オペラ指揮者として本格的にデビュー。以後現在までに、『アポロとヒュアキントス』（モーツァルト）から、初演を手掛けた『不思議の国のアリス』（木下牧子）に至る、幅広いレパートリーを指揮している。また新国立劇場をはじめとする数々のオペラ公演の副指揮者・合唱指揮者としても活動した。牧阿佐美バレエ団との共演や、ジャニーズの「嵐」と共演したミュージカル『ウェスト・サイド・ストーリー』（バーンスタイン）の指揮など、オペラ以外の舞台音楽にも積極的に取り組んでいる。オーケストラ指揮者としては、仙台フィルハーモニー管弦楽団の副指揮者を務めたのち、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京ニューシティ管弦楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、群馬交響楽団、山形交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、九州交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラなどのオーケストラを指揮している。新国立劇場バレエ公演では08年『カルメン』で編曲と指揮、09年『くるみ割り人形』、10年『グラン・パド・フィアンセ』『こうもり』より「グラン・カフェ」で指揮を務めている。

こうもり

2012.2/4 ~ 12

レパートリー
Repertoire

Roland Petit's *La Chauve-souris*

オペラパレス | 5回公演

ローラン・プティの傑作バレエが久々の登場！
エスプリの効いた洒脱なバレエをどうぞ。

再演を重ねる新国立劇場バレエ団のレパートリー作品として、普段バレエをご覧にならないお客様や男性のお客様にもお楽しみいただけるバレエ作品です。全編にフランス人のプティならではのユーモアとチャームな踊りに溢れた粋なバレエ作品ですが、それゆえ主役をはじめ主要登場人物を踊るためには、演技力やコケティッシュな大人の魅力、ユーモアのセンスが必要とされます。この作品は、クラシック作品だけからは見ることのできないダンサーの個性が存分に発揮されるバレエでもあります。

大人の洗練された笑い、洒脱な楽しさ、ラストの一抹の悲しさ etc…。プティ・バレエの芳醇な香りを新国立劇場でどうぞ。

(2011年12月に新国立劇場オペラ『こうもり』が上演予定です。)



ものがたり

夜な夜なこうもりの羽をつけて飛び立っていくヨハン。夫の夜遊びに悩むベラは友人のウルリックに相談し、謎の麗人に変装して夫を誘惑する作戦を開始する。夜のカフェで彼女に見惚れたヨハンは、自分の妻とも知らず夢中になり追いかけるうち、騒ぎに巻き込まれて捕らわれの身に。さて、夫妻の愛のゆくえはいかに…。

振 付：ローラン・プティ

音 楽：ヨハン・シュトラウスⅡ世

編 曲：ダグラス・ガムレイ

美 術：ジャン・ミッシェル・ウィルモット

衣 裳：ルイザ・スピナテッリ

照 明：マリオン・ユーレット／パトリス・ルシュヴァリエ

指 揮：デヴィッド・ガルフォース

管弦楽：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

Choreography : Roland Petit

Music : Johann Strauss II

Arrangements : Douglas Gamley

Scenery : Jean-Michel Wilmotte

Costumes : Luisa Spinatelli

Lighting : Marion Hewlett / Patrice Lechevallier

Conductor : David Garforth

Orchestra : Tokyo City Philharmonic Orchestra

キャスト

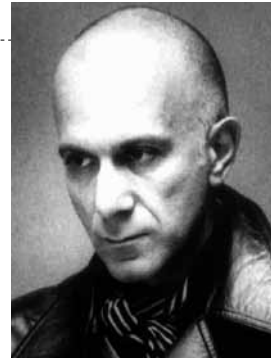
ゲスト／新国ダンサー



ローラン・プティ

Roland Petit

パリ生まれ。パリ・オペラ座バレエ学校で学んだ後、パリ・オペラ座バレエに入団。当時芸術監督だったセルジュ・リファールらに才能を認められるが、自由な創作の場を求めて20歳の時に退団。ジャン・コクトー、パブロ・ピカソなどの芸術家、知識人と交流しながら『若者と死』(1946年)、『カルメン』(49年)などの力作を次々と発表し、一躍時代の寵児となった。50～60年代には映画やミュージック・ホール、テレビの分野に精力を傾け、パリ・オペラ座バレエに振り付けた『ノートルダム・ド・パリ』(65年)以降さらに自由で洗練された表現に結びついていく。72年に国立マルセイユ・バレエの芸術監督に招かれ、『アルルの女』『ブルースト』(74年)『長靴をはいた猫』(85年)『マ・バヴロヴァ』(86年)など、多くの新作を発表。ダンサーとしても独自の存在感を発揮。98年に同団を退き、現在はフリーの振付家として、創作・上演指導を続ける。プティが生み出すバレエの魅力はパリっ子らしい軽妙洒脱さ、小粋さにあると言われ、バレエ一筋の経歴ではなくミュージカルやレビューなどを手掛けた経験が自由さや柔軟さを作り出す。ロシアの最高国家章をフランス人で初めて受章(2001年ボリショイ劇場での『スペードの女王』の制作など世界のバレエ界への多大な貢献に対して)するなど、その活躍は、近年ますます充実している。



ヨハン・シュトラウスⅡ世 (1825～1899)

Johann Strauss II

オーストリアの作曲家、指揮者、ヴァイオリニスト。ワルツの父と称されるヨハン・シュトラウスの長男として生まれる。音楽家になることを反対されたが、密かに音楽の勉強をはじめ、1844年に楽団を結成して指揮者としてデビュー。56年から約30年にわたりロシア、ヨーロッパのほぼ全域、さらにはアメリカにも演奏旅行に赴いた。63年には宮廷舞踏会の音楽監督に任命される。『美しく青きドナウ』『皇帝円舞曲』など生涯170曲を超えるワルツを作曲、ワルツ王と称された。弟ヨーゼフとの合作『ピチカート・波尔カ』をはじめとする波尔カの作曲数は120曲にのぼるほか、オペレッタにも取り組み『こうもり』『ジプシー男爵』など18曲を書いている。カドリユ、行進曲なども含め全500曲以上の作品を残した。

デヴィッド・ガルフォース

David Garforth

王立マンチェスター音楽大学でピアノ、ヴァイオリン、指揮を学んだ後、バリ音楽院に進学、首席で卒業。さらにバリ大学芸術学部でイゴール・マルケヴィッチに師事。1985年にローラン・プティ振付『マ・バヴロヴァ』初演の指揮者に招かれ、以後『コッペリア』『若者と死』『カルメン』『ノートルダム・ド・パリ』『眠れる森の美女』『ブルースト』など国立マルセイユ・バレエの数々の公演で指揮した。近年はミラノ・スカラ座のゲスト指揮者を務め、ロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドンへのツアーに同行している。またオペラにも積極的にに関わり、91年有名歌手たちと協同で、若い歌手を育成し、出演機会を作るための講座をロンドンに創設した。BBCをはじめとするテレビ局やコヴェントガーデン、王立オペラハウスの交響楽団とも仕事をしており、王立デンマーク交響楽団と『ラ・シルフィード』を録音しているほか、近年はバリでラヴェル、リムスキー＝コルサコフ、ボロディン、ガーシュインなどのレパートリー、またモンテカルロ・フィルとの『ロメオとジュリエット』全曲の録音がある。新国立劇場では2002年、03年、06年『こうもり』、03年、04年、08年『シンデレラ』、05年『眠れる森の美女』、07年、09年『コッペリア』で指揮を務めた。07年『オルフェオとエウリディーチェ』では編曲も手がけた。



アンナ・カレーニナ

2012.3/16 ~ 20

レパートリー
Repertoire

Eifman's Anna Karenina

中劇場 | 5回公演

新国立劇場バレエ団の一つの頂点を示したエイフマン作品 迫力の舞台、再演決定！

エイフマンの『アンナ・カレーニナ』は、新国立劇場バレエ団の一つの頂点を示すことになった作品で初演時には内外から高い評価を得ました。

現代ロシア・バレエを代表するエイフマン作品は、そのどれをとっても難易度の高いテクニックや内面を抉り出すような深い表現力と役柄への十全な理解が必要とされるバレエばかりです。2010年に上演された本作品では新国立劇場バレエ団のダンサーたちは見事にその要求に応え、満場の喝采を浴びました。特に主役3人と男性ダンサー、群舞の心理的表現力で会場を深い感動で満たしました。同時に当バレエ団が新陳代謝を経ながら充実期を迎えていることを実感させた公演でもありました。

この作品以前は、女性ダンサーの洗練された繊細な表現に定評のある新国立劇場バレエ団でしたが、エイフマン作品に出会ったことで、バレエ団の新たな個性がステージに現れました。その成果をビントレ監督も高く評価し、今回の再演が決定しています。この上演以降も様々な作品を踊り表現力、テクニックとも磨きのかかったダンサーたちによって、さらに深みを増したステージになるでしょう。

ものがたり

アンナは夫カレーニンと愛する子どもの3人で暮らしているが、その穏やかな生活はうわべだけで、夫との関係はすでに冷たくなっている。舞踏会で若い将校ヴロンスキー伯爵と出会い二人は恋に落ちる。しかし次第にアンナは良心の呵責に悩まされる。再びペテルブルグにもどってくるが人々の冷たい態度に接し、戻るべき場所のないことを悟る。人生を憎悪に満ちたものとしか見ることができなくなったアンナは、一人駅へと向かう…。

台本・振付：ボリス・エイフマン

Libretto / Choreography : Boris Eifman

音楽：ピョートル・チャイコフスキー 他(録音音源を使用)

Music : Pyotr Tchaikovsky

装置：マルチニシュ・ヴィルカルシス

Set Design : Martins Vilkarsis

衣裳：ヴァチェスラフ・オークネフ

Costumes : Vyacheslav Okunev

キャスト

アンナ：厚木三杏／ゲスト 他

カレーニン：山本隆之／ゲスト 他

ヴロンスキー：貝川鐵夫／ゲスト 他



2010年公演より

ボリス・エイフマン

Boris Eifman

現代演劇界の第一人者であり、サンクトペテルブルグ国立アカデミー・バレエ劇場を創設し、その芸術監督を務める。エイフマンの実り多い創作活動の年月で約50本の作品が制作されたほか、作品を素材にしたバレエ映画や、エイフマンの芸術活動をテーマにしたテレビ番組が数多く制作された。劇場のレパートリーに対応するように肉体による思想表現を行う特異なバレエ団が形作られてきた。ダンサーはクラシックバレエも現代舞踊も自在にこなし、演出家の意図を絶妙に具現する集団である。エイフマンは新たな演技集団を形成する中で、バレエ芸術を精神的なプロセスであると定義している。現在、エイフマンが率いる劇場はロシア内外で常に人気を博し、世界的な名声を誇り、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、アフリカで公演を続けている。「舞踊とは精神の感情の営みを実体化できる特異な芸術形態なのです」とエイフマンは語る。

エイフマンは自らの作品の中で人間存在の最重要な問題に挑み、人間の心理の秘密に奥深く迫ろうとする。現代が抱える問題が彼の不安を駆り立てる。彼の演出作品は舞踊展開の新しいフォルム、新しい原則を発見する総合的なショーなのである。それは開放された感情体験の劇場なのである。



白鳥の湖

2012.5/5 ~ 13

レパートリー
Repertoire

Swan Lake

オペラパレス | 6回公演

時代を越え世代を越え愛されるバレエの代名詞『白鳥の湖』
新シーズンはゴールデン・ウィークにお楽しみください。

定番クラシックバレエ作品の中でも絶大な人気を誇る作品。新国立劇場版『白鳥の湖』は、牧阿佐美前芸術監督が2006年に改訂・振付、格調の高さはそのままにイギリス人美術家カザレットによる現代的で洗練された色彩感覚が印象的な舞台です。その特徴は、物語に論理的整合性を持たせ、バレエ入門者にもわかりやすい物語としてステージが展開すること、プロローグで物語の発端がわかりやすく描かれている点や、カットされることの多いロシアの踊り・ルースカヤの部分が主役級のダンサーの見応えのあるソロによって踊られること、またスピーディなダンスや高度なテクニックが随所に散りばめられている点などが挙げられます。

さらに新シーズンは多くの方々に愛されている、バレエの代名詞ともいえる当作品をご家族でもお楽しみいただけますよう、あるいは全国のお客様にもご来館いただけますようゴールデンウィークに公演日を設けました。

ものがたり

20歳の誕生日を迎えた王子は妃を迎えるよう母の王妃から諭される。愛のない結婚に気が沈む王子は、気晴らしに森へ出かけ魔法によって白鳥に変えられたオデットに出会う。一目で恋に落ちた王子は永遠の愛をオデットに誓うのだが……。



振付: マリウス・プティパ／レフ・イワノフ	Choreography: Marius Petipa / Lev Ivanov
作曲: ピョートル・チャイコフスキー	Music: Pyotr Tchaikovsky
演出・改訂振付: 牧阿佐美	Revised by Maki Asami
舞台装置・衣裳: ピーター・カザレット	Designs: Peter Cazalet
照明: 沢田祐二	Lighting: Sawada Yuji
指揮: アレクセイ・バ克蘭	Conductor: Alexei Baklan
管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団	Orchestra: Tokyo Philharmonic Orchestra

キャスト

オデット/オディール: S. ザハロワ／小野絢子／川村真樹 他
ジークフリード王子: A. ウヴァーロフ／福岡雄大／貝川鐵夫 他

アレクセイ・バクラン

Alexei Baklan

1987年キエフ国立音楽学院を卒業後ウクライナ国立歌劇場で指揮者を務める。95年キエフ市アカデミー・オペラ・バレエ劇場首席指揮者に就任。ウクライナ芸術功労活動家の称号を授与される。ウクライナ国立歌劇場では『マーメイド』『コッペリア』『ウィンナー・ワルツ』『海賊』、またキエフ市アカデミー・オペラ・バレエ劇場では『リゴレット』『ロメオとジュリエット』『ラ・バヤデール』『ジゼル』『白鳥の湖』『不死身のカシェイ』『森の詩』などのオペラやバレエに指揮者・音楽監督として参加。交響曲ではベートーヴェン『交響曲第9番』、ロッシーニ『スターバト・マーテル』、オルフ『カルミナ・ブラーナ』などを手がける。2003年、06年にはメキシコで、マリインスキー劇場、ボリショイ劇場、ウクライナ国立歌劇場、アメリカン・バレエ・シアター、ニューヨーク・シティ・バレエ、シュトゥットガルト・バレエなどで活躍する世界のバレエ界のスターたちを集めて行われたガラ・コンサート「バレエティッシモ」で指揮を務めた。またウクライナ国立歌劇場のドイツ、フランス、スペイン、スロベニア、ポルトガル、韓国、イギリス公演（05、06、07年）に参加。キエフ市アカデミー・オペラ・バレエ劇場首席指揮者およびウクライナ国立歌劇場指揮者。新国立劇場では08年『ラ・バヤデール』、09年、10年『白鳥の湖』、09年『ドン・キホーテ』で指揮を務めている。



マノン

2012.6/23 ~ 7/1

レパートリー
Repertoire

MacMillan's *Manon*

オペラパレス | 5回公演

英国バレエの最高峰『マノン』 9年ぶり待望の再演、あの感動を再び

ビントレー芸術監督が、敬愛する振付家としてしばしば言及するマクミランの傑作『マノン』。アベ・プレヴォーによって書かれたマノン・レスコーの物語は、プッチーニやマスネがオペラにしたのをはじめ、絵画や映画の題材としても幾度も取り上げられています。時代を越えて芸術家たちの心を捕らえて離さないファム・ファタル"マノン"。マクミランのバレエ版『マノン』は英国バレエの最高峰と言われ、バレエ団の総合力が問われるハードルの高い作品としても知られています。見どころはマノンとデ・グリュウの純愛。当時の世相そのままに、恋に溺れ、贅沢と快楽を求め、ひたすら破滅へと落ちてゆく若い二人の愛と死のドラマは美しくかつ壮絶、マクミラン独特のアクロバティックなリフトを多用したデュエットの数々が、マスネの美しい旋律と溶け合って二人の心情を見る者に強く訴えかけます。

その劇的表現や緻密な構成、さらにダンサーの魅力が存分に発揮されるバレエで、観客を魅了して、2003年新国立劇場バレエ団の初演時には大きな反響のあった作品でもあります。二度の海外公演と新制作バレエ上演など数多くの経験を重ねた新国立劇場バレエ団が満を持して9年ぶりに上演する『マノン』に大きな期待が集まります。

シーズンを締めくくりに相応しい大作にご期待ください。

ものがたり

美しい少女マノンと神学生デ・グリュウは恋に落ち、駆け落ちをする。老富豪ムッシューG.Mはマノンの兄レスコーに彼女の身請け話を持ちかけ、大金と引き換えに兄レスコーの同意を取り付ける。マノンとデ・グリュウはしばし共に暮らすが、デ・グリュウの留守中にムッシューG.Mが現れ、大金でマノンを説得し愛人として彼女を連れ去ってしまう。ムッシューG.Mのパーティーでマノンとデ・グリュウは再会、マノンを説得するデ・グリュウに「カードでイカサマしてムッシューG.Mの金を巻き上げられれば一緒に行く」と答えるマノン。だがイカサマは見破られてしまう。

逃亡するマノンとデ・グリュウだが、マノンが捕まりアメリカに流刑になる。デ・グリュウはマノンを追ってアメリカへ。刑務所でも美しい彼女は看守に口説かれ、そこへデ・グリュウが現れる。彼は看守を刺し、マノンを連れて逃亡する。ルイジアナの沼地に逃げ込む二人。疲れ果てたマノンはいずれ、デ・グリュウの腕の中で静かに息絶える。

振 付：ケネス・マクミラン

Choreography : Kenneth MacMillan

音 楽：ジュール・マスネ

Music : Jules Massenet

編 曲：レイトン・ルーカス／ヒルダ・ゴント

Arrangements : Leighton Lucas / Hilda Gaunt

照 明：沢田祐二

Lighting : Sawada Yuji

指 揮：未定

Conductor : TBA

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

Orchestra : Tokyo Philharmonic Orchestra

キャスト

マノン：小野絢子／ゲスト 他

デ・グリユー：福岡雄大／ゲスト 他

レスコー：菅野英男 他



2003年公演より



ケネス・マクミラン (1929～1992)

Sir Kenneth MacMillan

1929年スコットランド生まれ。サドラーズウェルズ（現ロイヤル）バレエ学校で学び、46年にはサドラーズウェルズ・シアター・バレエの創立メンバーとなる。その後コヴェント・ガーデン（ロイヤルバレエ）に移籍、優秀なクラシック・ダンサーとしてだけでなく、面白く共感と呼ぶマイムも得意とした。52年にサドラーズウェルズに戻り、若手ダンサーたちの自主公演で処女作『ソナンビュリズム』（53年）などを発表、好評を得たことから、振付家としての活動を開始。『隠れ家』（57年）、『招待』（60年）でリン・シーモアを起用、優れた演技力を発揮した彼女は以後20年近くに渡りマクミランのミューズとなる。マクミラン初の全幕バレエ『ロメオとジュリエット』はリン・シーモアとクリストファー・ゲイブルのために振り付けられ、65年コヴェント・ガーデンで初演された。バレエ学校時代の仲間であるジョン・クランコが芸術監督を務めるシュトゥットガルト・バレエでマーラーの歌曲による『大地の歌』が65年に初演されるなど、シュトゥットガルト・バレエに多くの作品を提供する。66年にはベルリン・ドイツ・オペラにバレエ芸術監督して招かれ、『眠れる森の美女』や『白鳥の湖』の演出、一幕ものの『アナスタシア』の振付などを手掛ける。70年にはアシュトンの後任として英国ロイヤルバレエのバレエ芸術監督に就任。3幕ものにリメイクされた『アナスタシア』や『マノン』などの長編バレエなど自らの作品に加え、ロビンズ、バランシン、ノイマイヤーなど他の振付家の作品をレパートリーに加える。振付に専念するため77年に芸術監督を辞任し、78年に『うたかたの恋』全3幕を発表、以後『グローリア』（80年）、『イサドラ』（81年）などを振り付ける。『影の峡谷』（83年）では、アレッサンドラ・フェリを見出し、84年にアメリカン・バレエ・シアターからアソシエイト・アーティスティック・ディレクターとして招かれた際フェリを同行し、『マノン』『ロメオとジュリエット』などがアメリカン・バレエ・シアターのレパートリーに加わった。ダーシー・バッセル主演の『パゴダの王子』（89年）、バッセルとイレク・ムハメドフ主演の『冬の夢』（91年）、ムハメドフとヴィヴィアナ・デュランテに『ユダの木』（92年）を振り付けた。92年『うたかたの恋』上演中の英国ロイヤルバレエの楽屋で死去。同じ夜、バーミンガム・ロイヤルバレエでは、マクミラン版『ロメオとジュリエット』が上演されていた。



ジュール・マスネ (1842～1912)

Jules Massenet

フランスの作曲家。パリ音楽院に学び、1863年にローマ大賞を受賞。イタリアに留学し、ドイツ、ハンガリーを歴訪する。帰国後オペラデビュー作となる『大伯爵さん』をオペラ・コミック座で上演（1867年）。普仏戦争従軍後、作曲活動を再開するとともにパリ音楽院の作曲科教授も務める。主要な作曲分野はオペラと歌曲で、歌曲は300曲近く、オペラは26本も作曲している。

主役キャスティング

パゴダの王子

オペラパレス

2011.10/30(日)2:00 11/1(火)7:00 11/2(水)2:00
11/3(木・祝)2:00 11/5(土)2:00 11/6(日)2:00

役名	10/30(日)	11/1(火)	2(水)	3(木・祝)	5(土)	6(日)
ローズ姫	小野絢子	長田佳世	米沢 唯	長田佳世	米沢 唯	小野絢子
王子	福岡雄大	山本隆之	菅野英男	山本隆之	菅野英男	福岡雄大
女王エピーヌ	湯川麻美子	川村真樹	本島美和	川村真樹	本島美和	湯川麻美子
皇帝	津村禮次郎	M.トレウバエフ	津村禮次郎	M.トレウバエフ	津村禮次郎	津村禮次郎
北の王	八幡顕光	福田圭吾	G.バリノフ	福田圭吾	G.バリノフ	八幡顕光
東の王	芳賀 望	江本 拓	輪島拓也	江本 拓	輪島拓也	芳賀 望
西の王	M.トレウバエフ	厚地康雄	福岡雄大	厚地康雄	福岡雄大	M.トレウバエフ
南の王	古川和則	菅野英男	貝川鐵夫	菅野英男	貝川鐵夫	古川和則

●料金 S:12,600円 A:10,500円 B:7,350円 C:4,200円 D:3,150円 ●前売開始 2011.7/10(日)

くるみ割り人形

オペラパレス

2011.12/17(土)2:00 12/18(日)2:00 12/21(水)7:00 12/22(木)7:00
12/23(金・祝)2:00 12/24(土)2:00 12/25(日)2:00

役名	12/17(土)	18(日)	21(水)	22(木)	23(金・祝)	24(土)	25(日)
金平糖の精	小野絢子	米沢 唯	本島美和	小野絢子	川村真樹	本島美和	川村真樹
王子	山本隆之	厚地康雄	福岡雄大	山本隆之	芳賀 望	福岡雄大	芳賀 望
雪の女王	西山裕子	寺田亜沙子	湯川麻美子	西山裕子	堀口 純	湯川麻美子	堀口 純
クララ	伊東真央	加藤朋子	さいとう美帆	伊東真央	井倉真未	さいとう美帆	井倉真未

●料金 S:12,600円 A:10,500円 B:7,350円 C:4,200円 D:3,150円 ●前売開始 2011.9/4(日)

こうもり

オペラパレス

2012.2/4(土)4:00 2/5(日)2:00 2/7(火)7:00
2/11(土)2:00 2/12(日)2:00

役名	2/4(土)	5(日)	7(火)	11(土)	12(日)
ペラ	ゲスト	新国ダンサー	ゲスト	新国ダンサー	新国ダンサー
ヨハン	ゲスト	新国ダンサー	ゲスト	新国ダンサー	新国ダンサー
ウルリック	新国ダンサー	新国ダンサー	新国ダンサー	新国ダンサー	新国ダンサー

●料金 S:10,500円 A:8,400円 B:6,300円 C:4,200円 D:3,150円 ●前売開始 2011.11/12(土)

アンナ・カレーニナ

中劇場

2012.3/16(金)7:00 3/17(土)2:00 / 7:00
3/18(日)2:00 3/20(火・祝)2:00

役名	3/16(金)	17(土)マチネ	17(土)ソワレ	18(日)	20(火・祝)
アンナ	厚木三杏	ゲスト	新国ダンサー	ゲスト	厚木三杏
カレーニン	山本隆之	ゲスト	新国ダンサー	ゲスト	山本隆之
ヴロンスキー	貝川鐵夫	ゲスト	新国ダンサー	ゲスト	貝川鐵夫

●料金 S:10,500円 A:8,400円 B:6,300円 C:4,200円 D:3,150円 ●前売開始 2011.12/11(日)

白鳥の湖

オペラパレス

2012.5/5(土)4:00 5/6(日)2:00 5/8(火)7:00
5/11(金)2:00 5/12(土)2:00 5/13(日)2:00

役名	5/5(土)	6(日)	8(火)	11(金)	12(土)	13(日)
オデット/オディール	S.ザハロフ	小野絢子	S.ザハロフ	小野絢子	川村真樹	新国ダンサー
ジークフリード王子	A.ウヴァーロフ	福岡雄大	A.ウヴァーロフ	福岡雄大	貝川鐵夫	新国ダンサー

●料金 S:10,500円 A:8,400円 B:6,300円 C:4,200円 D:3,150円 ●前売開始 2012.2/12(日)

マノン

オペラパレス

2012.6/23(土)4:00 6/24(日)2:00 6/26(火)7:00
6/30(土)2:00 7/1(日)2:00

役名	6/23(土)	24(日)	26(火)	30(土)	7/1(日)
マノン	小野絢子	ゲスト	ゲスト	未定	未定
デ・グリユー	福岡雄大	ゲスト	ゲスト	未定	未定
レスコー	菅野英男	未定	未定	未定	未定

●料金 S:12,600円 A:10,500円 B:7,350円 C:4,200円 D:3,150円 ●前売開始 2012.4/7(土)

(注)上記キャスティングにつきましては、今後変更の可能性があります。

主役ダンサー・プロフィール〈ゲストダンサー〉

(掲載は公演日順)

津村禮次郎

Tsumura Reijiro

重要無形文化財(能楽総合)保持者 観世流緑泉会代表

一橋大学在学中に女流能楽師の草分け・津村紀三子に師事。卒業と同時に能楽師の道を志し1974年津村紀三子死去により緑泉会を継承する。

91年文化庁により重要無形文化財(能楽総合)保持者に認定される。古典能の公演のほか指導者として若手の育成につとめる他、新作能、創作的活動も多い。海外公演や他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも多く、2005年にアンデルセン作『ある母の物語』をデンマーク人音楽家、オペラ歌手と制作し、新たな境地を開く。文化庁より10年文化交流使としてロシア、ハンガリーに派遣される。

09年『森山開次作品集』では『OKINA』『弱法師 花想観』『狂ひそうるふ(KURUI)』の3作品すべてに森山開次と共に演じ、好評を得た。



スヴェトラーナ・ザハロワ

Svetlana Zakharova

〈ボリショイ劇場バレエ・プリンシパル〉

ウクライナ国立キエフ・バレエ学校でワレリヤ・スレーギナに学ぶ。1995年にワガノフ・バレエ学校に転校し、エレナ・エフテーエワに師事する。96年マリンスキー劇場バレエに入団し、97年プリンシパルに昇格。2003年ボリショイ劇場バレエに移籍。古典バレエ主役のほかマクミランの『マノン』、バランシンやノイマイヤーの現代作品を踊る。際だったテクニックと繊細な演技力、舞台での存在感と華麗さを持つスターダンサー。1997年バルティカ賞、99年と2000年にゴールデン・マスク賞、05年ブノワ賞などの受賞歴のほか、05年ロシア連邦功労芸術家の称号、07年にロシア国家賞を受ける。新国立劇場には02年『白鳥の湖』で初登場し、『ラ・バヤデル』、『眠れる森の美女』、『ライモンダ』、『ドン・キホーテ』、牧阿佐美『椿姫』などに主演。新国立劇場バレエ団のボリショイ劇場公演にも尽力した。休養期間を経て12年『白鳥の湖』で新国立劇場に久しぶりに登場することになる。

アンドレイ・ウヴァーロフ

Andrei Uvarov

〈ボリショイ劇場バレエ・プリンシパル〉

モスクワ生まれ。ボリショイ・バレエ学校でアレクサンドル・ボンダレンコに師事し、1989年に卒業後ボリショイ劇場バレエに入団。長身に優美な理想的なダンスール・ノーブル。デビュー当初は滞空時間の長い、スケールの大きなジャンプで注目されたが、端正かつ情熱的な踊りと演技力が年々熟練度を増してきている。93年ロシアの舞踊家協会から世界的な活躍をしたダンサーに贈られるブノワ・ド・ラ・ダンス賞を受賞し、95年にはナデージタ・グラチョワとともに参加した大阪・世界バレエ・コンペティションで第1位ゴールド・プライズを獲得した。96年ロシア連邦功労芸術家、2000年ロシア連邦人民芸術家。『白鳥の湖』『ジゼル』『眠れる森の美女』『ドン・キホーテ』『ラ・バヤデル』『ロメオとジュリエット』の主役など、古典を中心とした物語バレエでの叙情性に満ちた踊りが高い評価を得ている一方、現代作品ではスピード感溢れるシャープな面でも評価が高い。新国立劇場では『ジゼル』、『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』『ドン・キホーテ』『ライモンダ』『白鳥の湖』などで主演、好評を博す。



主役ダンサー・プロフィール〈新国立劇場バレエダンサー〉

(掲載は五十音順)

山本隆之 プリンシパル

Yamamoto Ryuji

大阪府出身。ケイ・バレエ・スタジオにて矢上香織、矢上久留美、矢上恵子に師事、ジャズダンス、クラシックバレエを始める。1993年にニューヨークのジョフリー・バレエ学校に奨学生として留学し、ジョフリー・バレエに入団。95年韓国光州国際バレエコンクールのパ・ド・ドゥ部門で第2位入賞。新国立劇場へは97年より登録ソリスト、2001年からシーズン契約ソリスト。08年にプリンシパルに昇格した。新国立劇場がレパートリーとするほとんど全ての作品で主役を踊っており、名実ともに新国立劇場バレエ団のトップ・ダンサーである。現代振付家作品での卓越した踊りとともに古典作品におけるノブールな美しさも評価が高い。03年中川鋭之助賞、05年服部智恵子賞、07年橘秋子賞優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。



川村真樹 ファースト・ソリスト

Kawamura Maki

岩手県出身。黒沢智子バレエスタジオで学ぶ。1994年こうべ全国洋舞コンクール・ジュニアの部第1位、同年全日本バレエコンクール・ジュニアの部第1位を受賞し、95年ローザンヌ・スカラシップ賞を得て英国ロイヤルバレエ学校に留学。新国立劇場へは99年秋よりシーズン契約ダンサー。同シーズンの石井潤振付『十二夜』で主役ヴァイオラに抜擢された。2003/2004シーズンにコリフェ、翌2004/2005シーズンにはソリストに昇格。2008/2009シーズンからファースト・ソリストとなった。これまでに『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『ライモンダ』『ドン・キホーテ』『くるみ割り人形』で主役を踊り高い評価を得ているほか、『カルメン』『ミカエラ』『サープ』『プッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ』プリンシパルなど重要な役を数多く務めている。日本人離れした伸びやかで美しい肢体、舞台映える華やかなステージ姿を持つダンサー。

厚木三杏 ソリスト

Atsugi Mia

神奈川県出身。1981年小倉礼子バレエ研究所に入所、後に小川亜矢子、アベ・チエに師事。89年英国ロイヤルバレエ学校に留学する。91年に帰国、スターダンサーズバレエ団に所属。同年10月のジェローム・ロビンス振付の『牧神の午後』で主役デビューし、高い評価を得る。93年文化庁派遣芸術家在外研修員として英国バーミンガム・ロイヤルバレエで学ぶ。2003年より新国立劇場シーズン契約ソリスト。04年の『眠れる森の美女』で新国立劇場バレエ団における全幕主役デビュー。その後、『白鳥の湖』『ドン・キホーテ』『ジゼル』等に主演。エイフマン振付『アンナ・カレーニナ』アンナ役では迫真の演技力で絶賛された。古典作品のみならず現代的な感覚の作品でも、優れた感性をみせている。10年ニムラ舞踊賞を受賞。長い手足とすらりとした美しい容姿持つ印象的なダンサー。



小野絢子 ソリスト

Ono Ayako

東京都出身。小林紀子、パトリック・アルモン、牧阿佐美に師事。小林紀子バレエアカデミー、新国立劇場バレエ研究所(第3期修了生)を経て、2007年新国立劇場バレエ団ソリストとして入団。主な受賞歴にアデル・ジュニー国際バレエコンクール金賞などがある。入団直後に、ビントレー『アラジン』の主役に抜擢され成功を収めた。その後、『くるみ割り人形』、『白鳥の湖』、ビントレー『カルミナ・ブラーナ』、プティ『コッペリア』、『しらゆき姫』、フォーキン『火の鳥』で主役を務め、着実にキャリアを積み重ねている。10年スワン新人賞を受賞。クラシック・バレエダンサーとしての恵まれたスタイルとピュアなテクニックで、可憐な容貌で観客を魅了。ここ2年に数多くの主役を踊り高い評価を得ている。新シーズンも数多くの作品で主演予定、新国立劇場バレエ団の次世代を担うダンサーとして注目される。

主役ダンサー・プロフィール〈新国立劇場バレエダンサー〉

(掲載は五十音順)

長田佳世 ソリスト

Nagata Kayo

大阪府出身。ワクイバレエスクールにて涌井三枝子に師事。その後ポリショイ・バレエ・アカデミーに留学し現学校長のマリーナ・コンスタンチーナ・レオノバに師事。第1回光州国際バレエコンクールファイナリスト。1995年こうべ全国洋舞コンクール 第2位受賞。96年、第24回ローザヌ国際バレエコンクールセミファイナリスト。第2回世界バレエ&モダンダンスコンクールファイナリスト。97年ポリショイ・バレエアカデミーを首席で卒業し、国立ロシアバレエ団に入団、ソリストとして活躍した。その後、Kバレエカンパニーを経て、2009／2010シーズン新国立劇場バレエ団ヘソリストとして入団。2010年アシュトン振付『シンデレラ』で主役デビュー、クリアなテクニックと清々しい踊りで喝采を浴びた。



本島美和 ソリスト

Motojima Miwa

東京都出身。牧阿佐美、三谷恭三、豊川美恵子、ゆうきみほに師事する。1992年豊川美恵子エコールド・バレエ、97年橘バレエ学校を経て2000年牧阿佐美バレエ団に入団、01年に新国立劇場バレエ研修所に第一期生として入所。2年間の研修を終えて、03年より新国立劇場のシーズン契約ソリスト。05年の新制作『カルメン』で初めて主役に抜擢され、情熱的な演技とピュアな魅力で喝采を浴びた。これまでに数多くの主役を務めている。美しい容姿、舞台映える華やかな存在感で広く注目されている。出演したCMでの演技力が評価され、ACC CMフェスティバルの演技賞を受賞するなど多方面で活躍。06年に橘秋子賞スワン新人賞受賞した。

米沢 唯 ソリスト

Yonezawa Yui

愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオで学ぶ。国内国外の数多くのコンクールに入賞し、2006年に渡米、サンノゼバレエ団に入団した。主な受賞歴は、04年こうべ全国洋舞コンクールクラシックバレエ部門ジュニアの部第1位、全国舞踊コンクールジュニアの部第1位、ヴァルナ国際バレエコンクールジュニアの部第1位、05年世界バレエ&モダンダンスコンクール第3位、06年USA国際バレエコンクールシニアの部第3位など。サンノゼバレエ団では『くるみ割り人形』主役、クララ、スペインほか、バランシン『セレナーデ』『テーマとヴァリエーション』『The Four Temperaments』、サーブ『ナイン・シナトラソングズ』などを踊る。10年に契約ソリストとして新国立劇場バレエ団に入団した。2010/2011シーズンは、バランシン『シンフォニー・イン・C』第1楽章プリンシパル。アシュトン『シンデレラ』秋の精などで、確かなテクニックと鋭利とした踊りを披露した。



厚地康雄 ソリスト

Atsuji Yasuo

栃木県出身。5歳より石原千代に師事。2003年英国ロイヤル・バレエ学校に入学。卒業公演では『誕生日の贈り物』に主演。06年英国バーミンガム・ロイヤルバレエ団に入団。BRBでは、ライト版『眠れる森の美女』青い鳥と狼、『くるみ割り人形』スペインとアラブ、『白鳥の湖』スペイン、ビントレー『ペンギン・カフェ』熱帯雨林の家族、『ガラントウリーズ』、『シラノ』など、ソリストロールを含むほぼ全ての演目を踊る。10年に新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。長身から繰り出される高いジャンプなど高度なテクニックを持つダンサー。

主役ダンサー・プロフィール〈新国立劇場バレエダンサー〉

(掲載は五十音順)

貝川 鐵夫 ソリスト

Kaikawa Tetsuo

兵庫県出身。平櫛バレエ姫路、潮田弘子バレエ研究所を経て、ワガノワ・バレエ学校に留学し、1998年卒業。99年モナコ・プリンセスグレース・ダンス・アカデミーに留学。2000年秋より新国立劇場のシーズン契約ダンサーとなり、2004/2005シーズンよりソリストに昇格。主な受賞歴に1996年こうべ全国バレエコンクール・男性ジュニアの部第2位、97年アジア・パシフィック国際バレエコンクール・ファイナリストなど。古典作品の王子役で見せる美しい踊りのみならず、エイフマン振付『アンナ・カレーニナ』ではヴロンスキー役を演じ、豊かな表現力で絶賛された。長身で優雅な雰囲気を持つダンサー。



菅野 英男 ソリスト

Sugano Hideo

茨城県出身。山本禮子バレエ団付属研究所、モスクワ国立アカデミーで研鑽を積んだ後に、インペリアル・ロシアバレエ、キエフ国立バレエに所属した。これまでに、03年ルクセンブルク国際バレエコンクール・バ・ド・ドゥ部門第3位、04年ベルミ国際バレエコンクール第2位、08年ソチ国際バレエコンクールベストパートナー賞ほかを受賞している。10年より新国立劇場に契約ソリストとして入団。2010/2011シーズンはバランシン『シンフォニー・イン・C』第1楽章プリンシパル。アシュトン『シンデレラ』王子の友人などで出演。

芳賀 望 ソリスト

Haga Nozomu

神奈川県出身。芳賀バレエアカデミーを経て、ゴーバレエアカデミー（カナダ）、アルバータバレエ団（カナダ）、ジョフリーバレエ団（シカゴ）へ留学。アートコンペティション・チャンピオンシップ、アジア・パシフィック国際バレエコンクールファイナリスト。2003～07年Kバレエカンパニーに所属。2008/2009シーズンより登録ソリストとして新国立劇場バレエ団に参加し、ビントレー振付『アラジン』での主役を射止め、好評を得た。09年より新国立劇場契約ソリスト。美しいステージ姿やテクニックで注目される。



福岡 雄大 ソリスト

Fukuoka Yudai

大阪府出身。7歳からケイ・バレエスタジオにてバレエを始める。同スタジオで矢上香織、久留美、恵子に師事。2003年19歳で文化庁在外研修員としてチューリッヒジュニアバレエ団に入団、ソリストとして活躍。05年チューリッヒバレエ団にデミソリストとして入団、同バレエ団にてハインツ・シュペルリ振付『ゴールドベルグ組曲 No.14』『コッペリア』『春の祭典』などを踊り、06年ハインツ・シュペルリ振付『真夏の夜の夢』でバック役に抜擢される。07年同バレエ団退団後拠点を日本に移し、08年大阪市主催・青少年に贈る舞台鑑賞会で『くるみ割り人形』の王子を踊る。00年NBA全国バレエコンクール・コンテンポラリー部門第1位、03年神戸全国洋舞コンクール・バレエ男性シニア部門グランプリ、08年ヴァルナ国際バレエコンクール・シニア男性部門第3位、09年ソウル国際舞踊コンクール・クラシック部門シニア男性の部優勝などがある。2009/2010シーズンより新国立劇場バレエ団に契約ソリストとして入団。すでに『ドン・キホーテ』、牧阿佐美『椿姫』、フォーキン『火の鳥』といった作品で主役を務め高い評価を得ている。美しいテクニックや高い身体能力、恵まれた容貌で舞台を重ねる度に好評を博す。新シーズンも数多くの作品で主演予定、新国立劇場バレエ団の次世代を担うダンサーとして注目される。

CONTEMPORARY
DANCE

| *Lineup* |

2011/2012シーズン コンテンポラリーダンスラインアップ

〈計4演目〉

2011.9-10

ダンスシアトロンNo.21

中村恩恵 × 首藤康之

Shakespeare THE SONNETS

2回公演

2011.11

ダンスプラネットNo.35

近松DANCE 弐題

Aプログラム「女殺油地獄」

Bプログラム「エゴイズム」

8回公演

2012.2

ダンスプラネットNo.36

小野寺修二 カンパニーデラシネラ

カラマーゾフの兄弟

5回公演

2012.4

ダンスシアトロンNo.22

DANCE to the Future 2012

2回公演

ダンスシアトンNo.21

2011.9/30 ~ 10/1

中村恩恵×首藤康之

Shakespeare THE SONNETS

中劇場 | 2回公演

●前売開始：2011年6月18日(土)

2011.9/30(金) 7:00 10/1(土) 2:00

●料金 S : 6,300円 A : 5,250円 B : 4,200円 C : 3,150円

※全国公演：兵庫県立芸術文化センターでの上演を予定

今回新国立劇場では、中村恩恵と首藤康之がシェイクスピアの『ソネット』を現代の視点で読みなおしたデュオ作品を新制作します。

豊かな芸術性を持つ二人のアーティストが作り出す豊かな空間は、幅広いお客様にダンスをお楽しみいただける機会となるでしょう。

シェイクスピアのソネットは愛の詩です。輝かしい喜び、甘美な心の動き、優しさ、そして失うことの恐れや、嫉妬、猜疑心や諦め、苦悩……。多くの感情が表現されて、読む者の心をぐっと掴みます。遠く昔に生きたイギリスの詩人の心の動きが、まるで自分自身の心の動きと重複するような気持ちになります。

この謎めいた詩をめぐるのは、さまざまな解釈がなされていますが、今回の作品ではその神秘性を追求するのではなく、あえて大切にしつつ、二人で様々な試みや思考を重ね、煩雑に複雑に繋がってくる創作過程の中、骨格のみが立ち現れてくるまで削ぎ落とす入念な作業を通じて、これだけは削れないという人間の共通分母に出会うことができることを期待して、創作を進めていきたいと思っています。

中村恩恵
首藤康之

構成・演出：中村恩恵

Direction : Nakamura Megumi

振付・出演：中村恩恵／首藤康之

Choreography / Dance : Nakamura Megumi / Shuto Yasuyuki

中村恩恵

Nakamura Megumi

1987年第1回アジアパシフィックバレエコンクール・IBM賞、88年ローザンヌ国際バレエコンクール・プロフェッショナル賞受賞。フランス・ユースバレエ、アヴィニオンオペラ座、モンテカルロバレエ団を経て、91～99年ネザーランドダンスシアターに所属。退団後はオランダを拠点に活動。2000年自作自演ソロ『Dream Window』にて、オランダGolden Theater Prize受賞。01年彩の国さいたま芸術劇場にて、キリアン振付フルイブニングソロ『ブラックバード』上演、ニムラ舞踊賞受賞。05年『A play of a play』発表、ソロ作品『One 6』をオランダにて上演。

07年日本に活動の拠点を移し、Dance Sanga設立。振付家／ダンサーとしての活動を両立し、これまでにNoism07『Waltz』（舞踊批評家協会新人賞受賞）、NBAバレエ団『露とくとく』、野間バレエ『Room』・『シンデレラ』（全幕）、ダンストリエンナーレTOKYO2009にてソロ『ROSE WINDOW』を上演する。また、最近では『The Well-Tempered』『時の庭』等、首藤康之との創作活動を積極的におこなっている。自身の舞踊活動に加え、キリアン作品のコーチとしてパリオペラ座、ミラノスカラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。06・07年度ローザンヌ国際コンクールにコンテンポラリーレパートリーのコーチとして参加。



photo by NOMO



photo by 操上和美

首藤康之

Shuto Yasuyuki

15歳で東京バレエ団に入団。19歳で『眠れる森の美女』王子役で主役デビューを果たし、その後『ラ・シルフィード』、『ジゼル』、『白鳥の湖』等の古典作品をはじめ、モーリス・ベジャール振付『M』、『ボレロ』他、ジョン・ノイマイヤー、イリ・キリアン等の現代振付家の作品にも数多く主演。また、マシュー・ボーン振付『SWAN LAKE』では“ザ・スワン／ザ・ストレンジャー”／“王子”役で主演し、高く評価される。

2004年、『ボレロ』を最後に東京バレエ団を退団、特別団員となる。以降は、浅野忠信監督の映画『トリー』に出演、ジョー・カルルコ演出『SHAKESPEARE'S R&J』でストレートブレイに出演する他、東京バレエ団『牧神の午後』『ペトルーシュカ』『ギリシャの踊り』に客演。07年には自身のスタジオ『THE STUDIO』をオープン。その後もベルギー王立モネ劇場にて、シディ・ラルビ・シェルカウイ振付『アポクリフ』世界初演。小野寺修二演出『空白に落ちた男』に主演。

最近では『The Well-Tempered』『時の庭』等、中村恩恵との創作活動を積極的におこなっている。また、ドイツ・デュッセルドルフにて、ピナ・バウシュが芸術監督を務めるNRW国際ダンスフェスティバル、アイルランドのダブリン国際ダンスフェスティバル他、海外のフェスティバルにも数多く出演等、国内外問わず活動の場を広げている。

近松DANCE 弐題

小劇場 | 8回公演

●前売開始: 2011年9月18日(日)

Aプログラム「女殺油地獄」 2011.11/17(木)7:00 18(金)7:00 19(土)3:00 20(日)3:00 21(月)3:00

鍵田真由美×佐藤浩希 アルテ イ ソレラ

Bプログラム「エゴイズム」 2011.11/25(金)7:00 26(土)3:00 27(日)3:00

加賀谷 香 Dance-SHAN

●料金 A: 5,250円 B: 3,150円

日本は世界に誇る劇場芸術の長い歴史を持っていますが、今回はコンテンポラリーダンス部門で文楽、歌舞伎、演劇などの戯曲作家である「近松門左衛門」を共通テーマとした公演を上演します。登場するのは新国立劇場初お目見えとなるカンパニー、アルテ イ ソレラと加賀谷 香 Dance-SHAN。二つのプログラムでお贈りします。ご期待ください。

〈Aプログラム〉

鍵田真由美×佐藤浩希 アルテ イ ソレラ「女殺油地獄」

Kagita Mayumi × Sato Hiroki ARTE Y SOLERA

2001年文化庁芸術祭優秀賞に輝いた「FLAMENCO 曾根崎心中」に続き、第二弾となる近松門左衛門作品の創作フラメンコを上演する。

演出・振付: 佐藤浩希

出 演: 鍵田真由美・佐藤浩希 ほか

〈Bプログラム〉

加賀谷 香 Dance-SHAN 「エゴイズム」

Kagaya Kaori Dance-SHAN

近松による「世話物」狂言を題材にして、4名の魅力的な男性出演者を相手役に選び様々な男女の貫く「エゴイズムの正義」をダンスと音楽、語りで描き出します。

作・出演: 加賀谷 香

音楽監修: 笠松泰洋

アルテ イ ソレラ 鍵田真由美&佐藤浩希

ARTE Y SOLERA Kagita Mayumi & Sato Hiroki

鍵田真由美は6歳でモダンダンスを始め、その後クラシックバレエ、ジャズダンスなど様々な舞踊に触れる。日本女子体育短期大学・舞踊科在学時にフラメンコと出会い、佐藤桂子、山崎泰に師事。1990年河上鈴子スペイン舞踊新人賞を受賞。91年にスペインに留学し、95年鍵田真由美フラメンコ舞踊団(現 アルテ イ ソレラ)を結成。

佐藤浩希は、ある日偶然見たアントニオ・ガデスの『血の婚礼』とタブラオ『新宿ギターラ』での鍵田真由美の踊りに衝撃を受け福祉から一転、フラメンコの道へ。『新宿ギターラ』の翌日鍵田に入門し、96年河上鈴子スペイン舞踊新人賞、および日本フラメンコ協会新人公演で、史上初の特別奨励賞を受賞。97年から渡西を重ねる。

98年、鍵田真由美フラメンコ舞踊団に佐藤浩希が参画し、舞踊団「アルテ イ ソレラ」に発展。以降、佐藤浩希が全作品の演出・振付を担当する。初めて発表した『レモン哀歌〜智恵子の生涯〜』(1998)では能やハーモニカと共演し、鍵田真由美が文化庁芸術祭新人賞を受賞。2001年初演の阿木耀子プロデュース、宇崎竜童音楽監修・作曲の『FLAMENCO 曽根崎心中』では、近松門左衛門の作品のフラメンコ化に挑戦して文化庁芸術祭優秀賞を受賞。2004年には同作品でフラメンコ・フェスティバル「フェスティバル・デ・ヘレス」(スペイン)にスペイン国外の舞踊団として初めて招聘され、絶賛される。同年日本では、フラメンコの伝統や土着性に根ざした作品『ARTE Y SOLERA 歓喜』で文化庁芸術祭大賞を受賞。これまでに10を超える劇場作品を発表している。

一方で、08年よりフラメンコの原点に立ち戻るべく100名程度の小空間のためのシリーズ『desnudo (デスヌード) 鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコライブ』を定期的に開催、現在までに7回を数える。伝統的なフラメンコに対しても愛情、造詣ともに深く、スペイン・ヘレスにも拠点を持つ。

アルテ イ ソレラ HP <http://www.arte-y-solera.com>



photo by 川島浩之



photo by 川島浩之



加賀谷 香

Kagaya Kaori

1976年より故・藤井信子、川村泉に師事。全国舞踊コンクール第1位、文部大臣奨励賞など、コンクールでの受賞多数。内面の空間が広がる存在感あるダンサーとして評価が高く、ジャンルを超えた数々の作品にメインダンサーとして出演、海外公演にも多数参加している。加賀谷香 Dance-SHAN を主宰し創作の分野でも活躍。都内数カ所のダンススタジオにて講師を務め、後進の育成にも力を入れている。

新国立劇場では、2003年森山開次との共作『弱法師』を発表。08年9月「DANCE EXHIBITION」公演では太田恵資のヴァイオリン演奏によるソロ・ダンス『パレードの馬』を発表し、圧倒的な存在感と美しいダンスを見せた。『パレードの馬』は09年12月の現代舞踊協会公演でも再演され、その成果により第27回江口隆哉賞を受賞した。

加賀谷 香 Dance-SHAN オフィシャルウェブサイト <http://www.dance-shan.com>

小野寺修二 カンパニーデラシネラ カラマーゾフの兄弟

小劇場 | 5回公演

●前売開始：2011年11月19日(土)

2012.2/8(水)7:00 9(木)7:00 10(金)7:00 11(土)6:00 12(日)3:00

●料金 A:5,250円 B:3,150円

※全国公演：兵庫県立芸術文化センターでの上演を予定

“カンパニーデラシネラ”はマイム、ダンス、台詞を織り交ぜたフィジカルシアター的な作品を制作し、作品を発表するたびに内外で好評を博しているカンパニーです。

マイムダンス集団「水と油」で活躍した小野寺は、グループ活動休止後フランスへ1年間留学し2008年に新たにカンパニーデラシネラを立ち上げました。

今回の公演では優れた人間描写、マイム表現とダンスを織り交ぜた独特の世界観が音楽との相乗効果で「動いている空気を視覚化する」不思議なパフォーミングアートを生み出すことでしょう。

演出・振付：小野寺修二

Direction / Choreography : Onodera Shuji

出 演：カンパニーデラシネラ

Dance : Company Derashinera

小野寺修二

Onodera Shuji

日本マイム研究所にて佐々木博康氏にマイムを師事する。1995年、パフォーマンスシアター「水と油」を結成。全ての作品構成演出に関わる。その後海外の22都市、国内の22都市で公演を行った。

2000年東京都主催千年文化芸術祭優秀作品賞、01年エジンバラフェスティバルフリンジ・ヘラルドエンジェル賞、03年第2回朝日舞台芸術賞寺山修司賞などを受賞。05年新国立劇場主催公演『移動の法則』を発表するも、06年3月活動を休止。

06年9月より文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてパリに一年間滞在。08年1～2月帰国後初の新作として『空白に落ちた男』を発表。ベニサンピットでの53回公演を成功させ、2010年7～8月にはバルコ劇場での再演を果たした。

08年ソロ・ユニットであるカンパニーデラシネラを立ち上げ、公演ごとに才能あるアーティストと共演。神戸アートビレージセンターにてカンパニー初作品『Xのフーガ』を発表し、8月フランス、ポーランドを巡演。以後『ある女の家』『あらかじめ』『点と線』『異邦人』などを発表。それらの成果でミュージカル、演劇などの振付家として活躍の場を広げている。現在、豊穣なマイムとダンスの時空にテキストが加わりトータルシアターとして人気カンパニーとして躍進中。



photo by 石川純

DANCE to the Future 2012

中劇場 | 2回公演

●前売開始：2012年1月21日(土)

2012.4/21 (土) 3:00 22 (日) 3:00

●料金 S: 6,300円 A: 5,250円 B: 4,200円 B: 3,150円

新国立劇場バレエ団ダンサーがコンテンポラリーダンス公演に登場する、新国立劇場ならではの公演第三弾。
クラシック・バレエを基本とする当バレエ団がコンテンポラリーダンス作品に出会うことで、通常のバレエ公演では見られないエキサイティングなステージがバレエダンサーたちによって現出します。
普段新国立劇場でバレエ公演をご覧になっているお客様にもコンテンポラリーダンスの魅力を存分にご堪能いただける公演となるでしょう。

BALLET

公演一覧

開場記念公演～2010/2011シーズン

★=新制作

シーズン	公演	振付	改訂振付・演出等	音楽	公演初日
開場記念公演	眠れる森の美女★	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	97.10/24
	くるみ割り人形★	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン G. コームレフ	P. チャイコフスキー	97.12/18
	梵鐘の聲 ～平家物語より★	石井 潤	石井 潤	石井真木	98.2/1
1998/ 1999	白鳥の湖★	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ N. ドウジンスカヤ	P. チャイコフスキー	98.5/26
	ジゼル★	J. コラリ/J. ペロー/M. プティパ	K. セルゲーエフ N. ドウジンスカヤ	A. アダン	98.10/28
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	98.12/9
	ドン・キホーテ★	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	99.3/18
	トリプル・ビル				99.6/25
	レ・シルフィード★	M. フォーキン	M. パーク	F. ショパン	
	踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ★ ペトルーシュカ★	佐多達枝 M. フォーキン	J. オウドウ	W.A. モーツァルト I. ストラヴィンスキー	
1999/ 2000	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	99.10/7
	シンデレラ★	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	99.12/4
	トリプル・ビル				00.2/4
	ラ・バヤデールより“影の王国”★	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	
	テーマとヴァリエーション★	G. バランシン	P. ニアリー	P. チャイコフスキー	
	ペトルーシュカ	M. フォーキン	J. オウドウ	I. ストラヴィンスキー	
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	00.3/25
	J・バレエ～ダンス・クレアション～				00.5/19
	悲歌のシンフォニー～第3楽章★	金森 稔		H. グレツキ	
	十二夜★	石井 潤		G. マイネリオ ほか	
	舞姫★	望月則彦		A. シュニトケ ほか	
	ラ・シルフィード★	A. ブルノンヴィル	P. ニアリー／大原永子	H. ルーヴェンシュキョル	00.6/29
2000/ 2001	テーマとヴァリエーション	G. バランシン	P. ニアリー	P. チャイコフスキー	
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	00.9/5
	ラ・バヤデール★	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	00.11/17
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	00.12/22
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	01.2/23
	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	01.4/26
	トリプル・ビル				01.6/22
	テーマとヴァリエーション リラの園★	G. バランシン A. チューダー	P. ニアリー D. マーラー	P. チャイコフスキー E. ショーソン	
	ライモンダ第3幕★	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	
2001/ 2002	ロメオとジュリエット★	K. マクミラン	J. リンコン	S. プロコフィエフ	01.10/12
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	01.12/21
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	02.2/4
	ミックス・プログラム				02.3/16
	レ・シルフィード	M. フォーキン	M. パーク	F. ショパン	
	四つの最後の歌★	R.v. ダンツイヒ	R.V. ダンツイヒ	R. シュトラウス	
	ドゥエンデ★	N. ドゥアト	T. ファーブル/K. マッカーシー	C. ドビュッシー	
	シンフォニー・イン・C★	G. バランシン	P. ニアリー	G. ビゼー	
	リラの園	A. チューダー	D. マーラー	E. ショーソン	
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	02.5/17
	ジゼル	J. コラリ/J. ペロー/M. プティパ	K. セルゲーエフ	A. アダン	02.6/25

シーズン	公演	振付	改訂振付・演出等	音楽	公演初日
2002/ 2003	ローラン・プティのこうもり★	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世 (編曲 D. ガムレイ)	02.9/22
	J・バレエ～ダンス・クレアション～				02.11/15
	String (s) piece ★	金森 穰		池田亮司	
	Nothing is Distinct ★	中島伸欣		管谷昌弘	
	FEELING IS EVERYWHERE ★	島崎 徹		J.S. バッハ ほか	
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	02.12/21
	ラ・バヤデール	M. プティパ	牧阿佐美	L. ミンクス	03.2/21
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	03.5/16
	ラ・シルフィード	A. ブルノンヴィル	S. エルグランド/大原永子	H. ルーヴェンシュキョル	03.6/27
2003/ 2004	パキータ★	M. プティパ	M. ヴァジーエフ/L. クナコーワ	L. ミンクス	
	THE CHIC				03.10/3
	シンフォニー・イン・C	G. バランシン		G. ビゼー	
	ジゼル/こうもり/ラ・バヤデール/ロメオとジュリエットよりパ・ド・ドゥ				
	ジャルディ・タンカート★	N. ドゥアト		M.D.M. ボネ	
	マノン★	K. マクミラン	M. パーカー/P. ルアンヌ	J. マスネ	03.10/29
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	03.12/12
	ローラン・プティのこうもり	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世 (編曲 D. ガムレイ)	03.12/21
	ロメオとジュリエット	K. マクミラン	J. リンコン	S. プロコフィエフ	04.4/16
2004/ 2005	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	04.6/4
	ライモンダ★	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	04.10/15
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	04.12/17
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	05.1/7
	エメラルド・プロジェクトNo.1 カルメン by 石井 潤★	石井 潤		G. ビゼー (編曲 R. パーカー)	05.3/25
	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	05.4/29
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	05.6/25
	カルミナ・ブラーナ	D. ピントレー		C. オルフ	05.10/29
	ライモンダ ～第1幕より夢の場	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	
2005/ 2006	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	05.12/16
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	06.1/7
	ナチョ・ドゥアトの世界				06.3/23
	ドゥエンデ	N. ドゥアト	K. マッカーシー	C. ドビュッシー	
	ジャルディ・タンカート			M.D.M. ボネ	
	ボル・ヴォス・ムエロ★			15 ～ 16 世紀スペインの古楽	
	ローラン・プティのこうもり	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世 (編曲 D. ガムレイ)	06.5/19
	ジゼル	J. コラリ/J. ペロー/M. プティパ	K. セルゲーエフ	A. アダン	06.6/24
	ライモンダ	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	06.10/5
2006/ 2007	白鳥の湖★	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美 (K. セルゲーエフ版による)	P. チャイコフスキー	06.11/12
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	06.12/15
	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	07.2/1
	エメラルド・プロジェクトNo.2 オルフェオとエウリディーチェ★	D. ウォルシュ		C. W. グルック (編曲 D. ガルフォース)	07.3/21
	ローラン・プティのコッペリア★	R. プティ		L. ドリーブ	07.5/13
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	07.6/28

シーズン	公演	振付	改訂振付・演出等	音楽	公演初日
2007/ 2008	オペラ・バレエ ガラ公演				07.10/1
	セレナーデ	G. バランシン		P. チャイコフスキー	
	牧 阿佐美の椿姫★	牧 阿佐美		E. ベルリオーズ	07.11/4
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	07.12/19
	ニューイヤール オペラパレスガラ				08.1/5
	アード・ワルツ	牧 阿佐美		M. ラヴェル	
	「こうもり」から“グラン・カフェ”	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世	
	カルメン by 石井 潤★	石井 潤		G. ビゼー（編曲 R. バーカー）	08.3/27
2008/ 2009	ラ・バヤデール	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	08.5/18
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	08.6/24
	デヴィッド・ピントレーのアラジン★	D. ピントレー		C. デイヴィス	08.11/15
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	08.12/20
	ライモンダ	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラスノフ	09.2/10
	Ballet the Chic ーバランシン/サーブ/ドゥアトー				09.3/26
	セレナーデ	G. バランシン			
	ボル・ヴォス・ムエロ	N. ドゥアト			
	ブッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ 空間の鳥	T. サープ 井口裕之			
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美	P. チャイコフスキー	09.5/19
2009/ 2010	ローラン・プティのコツペリア	R. プティ		L. ドリーヴ	09.6/26
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. アレクセイ・ファジェーチェフ	L. ミンクス	09.10/12
	くるみ割り人形★	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美	P. チャイコフスキー	09.12/20
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美	P. チャイコフスキー	10.1/17
	ボリス・エイフマンのアンナ・カレーニナ★	B. エイフマン		P. チャイコフスキー等	10.3/21
	カルミナ・ブラーナ	D. ピントレー		C. オルフ	10.5/1
	ガラントウリーズ★	D. ピントレー		W.A. モーツァルト	
	牧阿佐美の椿姫	牧 阿佐美		H. ベルリオーズ	10.6/29
2010/ 2011	ピントレーのペンギン・カフェ				
	ペンギン・カフェ	D. ピントレー		S. ジェフェス	10.10/27
	シンフォニー・イン・C	G. バランシン	C. ニアリー	G. ビゼー	
	火の鳥	M. フォーキン		I. ストラヴィンスキー	
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	10.11/27
	ラ・バヤデール	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	11.1/15
	ピントレー監督が贈る ダイナミック ダンス!				11.3/19
	コンチェルト・バロック	G. バランシン		J.S. バッハ	
	テイク・ファイヴ	D. ピントレー		D. ブルーベック/P. デズモンド	
	イン・ジ・アップパー・ルーム	T. サープ		P. グラス	
	ピントレーのアラジン	D. ピントレー		C. デイヴィス	11.5/2
	ロメオとジュリエット	K. マクミラン		S. プロコフィエフ	11.6/25

CONTEMPORARY DANCE

公演一覧

開場記念公演～2010/2011シーズン

シーズン	公演	振付・主演・演奏等		公演初日
開場記念公演	パノラマ展 Aプログラム			97.11/21
	ラブソディ	石井かほる		
	リジェネレーション	能美健志		
	リゴドン ～死の舞踏	庄司 裕		
	マスターワークス			97.12/6
	鼻の唄	折田克子		
	世界はバッハのように	西田 堯		
	パノラマ展 Bプログラム			98.1/7
	春の祭典	竹内登志子		
	カウンターバランス ～現実をみるための空想～	米井澄江		
	風市	藤井 公		
1998/ 1999	ダンスプラネットNo.1 コムヘリタキナ	木佐貫邦子		98.4/24
	ダンスプラネットNo.2 ありす	中村しんじ		98.9/25
	ダンスアトロンNo.1 凡人 対 美黄			98.11/28
	ゆるやかなさかみち	厚木凡人		
	礼儀正しい隠蔽	若松美黄		
	ダンスアトロンNo.2 FAUST	平林和子		99.2/26
	ダンスプラネットNo.3 エロスの部屋 ～黒い乳母車～	泉 克芳		99.4/23
1999/ 2000	ダンスプラネットNo.4 現実との 3 分間／非現実との 3 分間 ～ピアソラへのオマージュ～	能美健志		99.9/24
	ダンスアトロンNo.3 神曲	西田 堯		99.11/27
	ダンスプラネットNo.5 ダンスコンサート 舞姫たちの午後			
	Aプログラム Sequence of tenses 死と乙女 城壁の空高く、のぼる太陽・しずむ月 Hommage 墜ちたる天女	田保和里 軽部裕美 武元賀寿子 菊地純子 本間祥公	振付 二見一幸 振付 能美健志 演奏 斎藤 徹／井野信義 演奏 森田浩平 演奏 杉浦 聡	00.3/10
	Bプログラム ff-fortissimo あいだ カッサンドラダンス あなたの肩に頬寄せて 雲の上に草をうえる人 権兵衛が種をまけば…	内田 香 北井千都代 地主律子 児玉敏子 川野真子 金井美三枝	演奏 馬場高望 振付 中村しんじ 演奏 香川隆樹／持丸 明／原 光弘	00.3/12
	ダンスプラネットNo.6 キングリア	上田 遥	演奏 東儀秀樹／王 霄峰	00.6/9

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2000/ 2001	ダンスプラネットNo.7 ピノッキオ	中村しんじ	00.9/22
	ダンステアトロンNo.4 Raj Packet -everything but Ravi	勅使川原三郎 演奏 SAND	00.12/16
	ダンステアトロンNo.5 Close the door, open your mouth HYPER BALLAD	伊藤キム 音楽監督・演奏 伊藤康英	01.3/10
	ダンスプラネットNo.8 エヴァのひみつ	石井かほる	01.6/15
	ダンスプラネットNo.9 Signs:Landmark	モリサ・フェンレイ ピアノ演奏 高橋アキ	01.9/28
2001/ 2002	Metamorphosis	菊地純子	
	ダンステアトロンNo.6 森羅	野坂公夫	01.12/1
	空間の詩学	正田千鶴	
	ダンスプラネットNo.10 伊藤キム作品集 Me and I / Butterfly and Me / あなた	伊藤キム	02.2/15
	ダンステアトロンNo.7 マーサへ ～空のなか 愛がふれあうとき～	アキコ・カンダ	02.6/15
2002/ 2003	ダンスプラネットNo.11 未来の空隙は響き	構成・演出・美術 小池博史	02.9/20
	ダンステアトロンNo.8 Raj Packet II	構成・振付・美術・衣装・照明 勅使川原三郎 演奏 SAND	02.12/14
	ダンスプラネットNo.12 DANCE EXHIBITION 2003		
	Aプログラム DOROBO 泥棒 ―再生の産声― the edge Figninto 穿たれた眼	石川ふくろう 永谷亜紀 カンパニー・サリア・ニ・セイドウ 振付 セイドウ・ボロ	03.3/14
	Bプログラム Against Newton ～ニュートンに逆らって 4×4	Dance Theatre LUDENS 構成・演出 岩淵多喜子 水と油	03.3/16
	ダンステアトロンNo.9 EXPECT 東京ダンスホール	木佐貫邦子 中村しんじ	03.6/21
	ダンスプラネットNo.13 ダンスコンサート 舞姫と牧神達の午後		
2003/ 2004	Giselle Espresso 弱法師 ロメオとジュリエットI & II シャコンヌ MAGUMA	軽部裕美 & 島地保武 内田香 & 古賀豊 加賀谷香 & 森山開次 特別出演 津村禮次郎 イ・ユンキョン & リュ・ソクン 平山素子 & 能美健志 蘭このみ & 清水典人	03.9/12
	ダンステアトロンNo.10 バレエ・ブレルジョカージュ ヘリコプター／春の祭典	アンジュラン・ブレルジョカージュ	03.11/7
	ダンスプラネットNo.14 Against Newton II 騒ぐにはもってこいの日	Dance Theatre LUDENS 構成・演出 岩淵多喜子 武元賀寿子 演奏 こまっちゃクレズマ／太田恵資	04.2/13
	ダンステアトロンNo.11 Close the door, open your mouth 花の歴史	伊藤キム 音楽監督・演奏 伊藤康英 伊藤キム	04.5/15

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2004/ 2005	ダンスプラネットNo.15 DANCE EXHIBITION 2004		
	Aプログラム Divining 月に歌うクジラ 冷めないうちに召し上げ	リー・ウォーレン & ダンサーズ 川野真子 内田 香 Roussewaltz ピアノ演奏 サイモン・テデスキ 総合演出 中村しんじ	04.9/15
	Bプログラム LOTUS —花の咲く時季 OKINA Swerve	浅野つかさ 森山開次 リー・ウォーレン&ダンサーズ 特別出演 津村禮次郎 打楽器演奏 バプロ・パーカッソー	04.9/17
	ダンステアトロンNo.12 KAZAHANA 風花	勅使川原三郎	05.2/4
	ダンスプラネットNo.16 移動の法則	水と油	05.2/18
	ダンスプラネットNo.17 田中 泯 独舞・赤光	田中 泯 演奏 大倉正之助／一噌幸弘	05.6/3
2005/ 2006	ダンスプラネットNo.18 ダンスコンサート 舞姫と牧神達の午後		
	ダリ的リアリズムの薔薇 あやかし Where is my moon? 光芒 ～長き尾を引き流れ星は～ Butterfly noon afternoon	矢作聡子 & 藤田恭子 & 関根えりか & 山中ひさの 花柳せいら & 伊藤拓次 バク・ユースン & キム・ソンヨン 蘭このみ & 清水典人 平山素子 & 中川 賢 マイケル・シューマツハ & アレッシオ・シルベストリン	05.9/16
	ダンスプラネットNo.19 コラボレートする身体 いぶさ～奇蹟の大地 法悦	森山開次 & 宮崎秀人 能美健志 & 高田みどり 打楽器演奏 高田みどり	05.11/25
	ダンステアトロンNo.13 バレエ・プレルジョカージュ		
	Aプログラム N	アンジュラン・プレルジョカージュ	06.1/31
	Bプログラム Les 4 saisons... (四季)	アンジュラン・プレルジョカージュ	06.2/4
	ダンスプラネットNo.20 きらめく背骨	前田清実 音楽・演奏 金子飛鳥	06.6/16
2006/ 2007	ダンスプラネットNo.21 DANCE EXHIBITION 2006		
	Aプログラム 【c-e】 消失にむかう地点の青 Crush さーかす	佐藤美紀 共同演出 鈴木千穂／平多利江 キム・バンソン 川野真子 演出 中村しんじ	06.9/15
	Bプログラム QWERTY 人形 Chopiniana ケース Butterfly no-side	石山雄三 湊斐美子 中野真紀子 新上裕也 平山素子&中川 賢 ゲー・リャンリャン&高頂	06.9/18
	ダンステアトロンNo.14 ガラスノ牙	勅使川原三郎	06.12/15
	ダンステアトロンNo.15 如風～inside of wind	野坂公夫／武元賀寿子／内田 香 演出・音楽・演奏 大倉正之助 音楽・演奏 ロバート・ミラベル	07.2/10
	ダンスプラネットNo.22 Life Casting —型取られる生命—	平山素子	07.6/1

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2007/ 2008	ダンスプラネットNo.23 消息 Substance	勅使川原三郎	07.9/29
	ダンスプラネットNo.24 勅使川原三郎ソロ ミロク	勅使川原三郎	07.12/8
	ダンスプラネットNo.25 ダンス名作展 —10年を振り返って未来への展望—		08.1/18
	Against Newton シャコンヌ Espresso さーかす	岩淵多喜子 平山素子&能美健志 内田 香&古賀 豊 川野真子 ヴァイオリン演奏 末永千湖 演出 中村しんじ	
	ダンスプラネットNo.26 未来へ繋ぐトリプル・ビル		08.2/15
	受胎告知 Butterfly 曲線（カーブ）した声	アンジュラン・ブレルジョカージュ 平山素子&中川 賢 野坂公夫／坂本信子	
	ダンスプラネットNo.27 空気のダンス —デッサンから飛び立った少年少女—	勅使川原三郎	08.4/4
2008/ 2009	ダンスプラネットNo.21 DANCE EXHIBITION 2008 —Dance meets Music—		
	A プログラム Accumulated Layout（蓄積された配置） “形が” “人が” 語り始めると カッコウ	梅田宏明 二見一幸／ダンスカンパニーカレイドスコープ Co. 山田うん ピアノ演奏 クリヤ・マコト	08.9/6
	B プログラム REM —The Black Cat バレードの馬 Flush（ほとばしる）～生き急ぐ時間たち～	川口ゆい 加賀谷香 上島雪夫／UESHIMA theater ヴァイオリン演奏 太田恵資	08.9/13
	ダンステアトロンNo.16 古楽とストラヴィンスキー 木佐貫邦子×平山素子		08.11/15
	キャラバン 春の祭典	木佐貫邦子 平山素子／柳本雅寛 音楽 スカンク ピアノ演奏 土田英介／篠田昌伸	
	ダンスプラネットNo.29 森山開次作品集		09.2/9
	OKINA 弱法師 花想観 狂ひそうろうふ（くるいそうろう）	森山開次／津村禮次郎 森山開次／加賀谷 香／津村禮次郎 森山開次 音楽 種子田郷 音楽 笠松泰洋 フルート演奏 木之脇道元 音楽・パーカッション YAS-KAZ	
	金森 稷 Noism09 ZONE ～陽炎 稲妻 水の月	金森 稷	09.6/17
	ダンステアトロンNo.17 勅使川原三郎 鏡と音楽	振付・演出・美術・照明・衣裳 勅使川原三郎	09.9/25
2009/ 2010	ダンスプラネットNo.31 平山素子 Life Casting —型取られる生命—	構成・振付 平山素子 音楽 落合敏行	09.11/5
	ダンスプラネットNo.32 近藤良平 トリプルビル	演出・振付 近藤良平	10.2/5
	ダンステアトロンNo.18 DANCE to the Future		10.5/29
	Wolfgang for Webb THE LAST ERA OF CINDERELLA Snow Lotus —雪蓮華	振付 ドミニク・ウォルシュ 振付 能美健志 振付 井口裕之 出演 新国立劇場バレエ団	

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2010/ 2011	ダンスプラネットNo.33 DANCE PLATFORM 2010		
	Aプログラム 果てに… SINSHOKU Improvisation.705117902 Autumn Hunch	原田みのる 池田美佳 菊地尚子 高瀬譜希子	10.10/22
	Bプログラム FAUNE (2008) レトルトーその中の愛と闘争 belle-île イキキル	大岩淑子 山口華子 松崎えり C/Ompany (大植真太郎・柳本雅寛・平原慎太郎)	10.10/29
	ダンスアトロンNo.19 ストラヴィンスキー・イブニング	音楽 イーゴリ・ストラヴィンスキー	10.12/4
	兵士の物語 春の祭典	演出・振付・美術原案 平山素子 振付・出演 平山素子／柳本雅寛	演奏 崔 文洙 (vl.) 松本健司 (cl.) 土田英介 (pf) ピアノ演奏 土田英介／篠田昌伸
	ダンスプラネットNo.34 イデビアン・クルー アレルギー	演出・振付 井手茂太	出演 イデビアン・クルー
	ダンスアトロンNo.20 DANCE to the Future 2011	振付 キミホ・ハルバート 振付 石山雄三 振付 上島雪夫	出演 新国立劇場バレエ団